

北海道南幌高等学校だより



南高不惑

校訓 「自主 自律」

北海道南幌高等学校

☎069-0238

南幌町元町3丁目2番1号

TEL:011-378-2248 FAX:011-378-2629

<http://www.nanporo.hokkaido-c.ed.jp>

■ Challenge !

校長 矢橋 佳之

本校にとって最後となる令和4年度が始まりました。

11月19日(土)に閉校記念式典と記念講演会、感謝の集い(懇親会)を行うべく準備を進めています。今後、本校HPなどで告知を進めていきます。同窓生の方々におかれましては、今から予定していただけますと幸いです。

さて、今年度は生徒6名に対し、教職員12名ですからおそらく「全道一手厚い高校」になりました。

逆に言えば、「全道一コストパフォーマンスが悪い学校」ととらえることも可能です。「1人の生徒を卒業させるために、どれだけの費用をかけるんだ」とお叱りを受けてしまうかもしれません。

だからこそ、今年度の本校のテーマを「Challenge! ~成長の最大化に挑戦する」としました。

他校に勤務していたときですが、教職員に学校改善に向けたアンケートをとったことがあります。その質問の最後に「先生にとって、教師のやりがいとは何ですか?」とつけくわえたことがあります。

皆さんの回答は異口同音「生徒の成長」にありました。日頃考え方が合わなかった先生も根底では同じ思いなんだと思ってうれしくなったことを覚えています。

文字を覚えてたの子どもが「見て、見て」とほこらしげに手紙を持ってきたときの笑顔のように、生徒が「先生、できました」と喜ぶ笑顔とか、本人も気づいていないかもしれないけれど、同僚と「あの子、最近成長したよね」とシェアしているときなど、もしかしたら自分の指導が生徒に何らかのよい影響を与えることができたのではないかと思いますなどは、つくづく教師になってよかったと思える瞬間です。

生徒1人あたりのコストが割高なのは否定し

ようのない事実ですし、今から改善する術もありません。そうであるならば、学校が社会に提供できる“パフォーマンス”を「生徒の成長」だととらえ、これを最大化することで少しでもコスパを改善することが本校の最後の1年間のミッションだと考えています。

自動車メーカー ホンダの創業者 本田宗一郎さんが挑戦について次のような言葉を残しています。

チャレンジしての失敗を恐れるな。

何もしないことを恐れる。

失敗が人間を成長させると私は考えている。失敗のない人なんて本当に気の毒に思う。

困れ。

困らなきゃ何もできない。

自分の力の足りなさを自覚し、知恵や力を貸してくれる他人の存在を知るのもいい経験である。

生徒にしても、教職員にしても、人数が少ないことはわかりきっていることです。それでも「人は人中、木は木中」の発想で、少しでも人間関係を広げ、人の中でもまれ、成長して欲しいと考えています。

昨年に引き続き、本校教職員が科目「産業社会と人間」でSDGsの考えに基づき、「持続可能な地域社会の実現を目指して」というテーマで地域探究を進める授業を行っています。今年度は若手農業集団“農猿”さんのご協力もいただきます。

また、同じく今年度限りで閉校となる青森県立金木高等学校との交流も準備が進んでいます。7月実施予定の本校学校祭に17名の生徒全員が来校し、交流を持ちます。10月には本校生も全員で金木高校の学校祭を訪れ、相互に交流を進めます。

泣いても笑っても今年度限り。ぜひ地域の皆さまにも本校の教育活動に加わっていただけると幸いです。

着任者紹介・中元徳寿 先生(英語) が着任されました！

3月に4名の先生が転出し、今年度は1名の先生が新しく本校に着任いたしました。南幌高校の最終年度。教職員一同最後の一瞬まで輝き続ける南幌高校を目指し新たな気持ちで取り組んでいきたいと思ひます。

本年度着任しました中元徳寿(なかもとのりひさ)です。南幌で感動したこと3つ。

1つ目は生徒。とても素直なことに感動。6人の生徒の力をどう引き出し、伸ばすか。

2つ目。朝の交通安全運動にて、役場の新人職員さん。「4月より一人暮らしを始め、右も左も分からないけど、期間中は毎朝来ています。」とのこと。社会人一年目で、自主的、自律的に行動されている姿に感動。生徒の一年後の姿は、こうあってほしい。

3つ目。地域の方が南高に集まり、それぞれの立場からご意見をいただいたこと。「生徒の最大限の成長」に力を貸して下さる、多くの大人に感動。「学校と社会がつながれば、『学び』は根本から変わる」という言葉を思い出す。新しい学びが起こりつつある。

この学校で勤務できることにワクワクしています。一年間よろしくお願いします。

2022年度がスタート しました！

13名が卒業し、新年度からは6名の3年生のみで新年度が始まりました。本校の最後の卒業生となる3年生ですが、今まで以上にこの一年で多くの力を身につけて羽ばたいてほしいと思ひます。何卒、応援のほどよろしくお願いします！



私の一冊

Vol.20 校長
矢橋佳之

今年度の「私の一冊」は本校図書室蔵書の中からおすすめの本を紹介しします。

『ミライの授業』 瀧本 哲史
「きみたちはなぜ学ぶのか？」

なぜかわからないけれど、高校くらいは出ておかなければならないのかなと思って…という人もいるかもしれません。

他人から強制される学びっておもしろくないですよ。少なくとも私は、「少しでも偏差値が高い学校がいい学校

なんだ」と信じ込まされて、あおられたからといって、それじゃあ勉強しようという素直な生徒ではありませんでした。それってなんだか調教されているようなイメージだからです。

社会に出て誰かに指図されるわけでもないのに、自分で「仕事でこうしたいからこれが役に立つのでは？」と始めた学びは信じられないほど楽しいものでした。そこで知り合った仲間から「こんなこともあるぞ」と紹介され、さらにいろいろな仲間と出会う。そして、できることも増える。本来、学ぶってこういうことなんじゃないのか？と思っています。

さて、この本は京都大学客員准教授の瀧本哲史氏が14歳の中学生に行ってきた特別講義「未来をつくる5つの法則」をもとに書かれたものです。

- 1 世界を変える旅は「違和感」からはじまる
- 2 冒険には「地図」が必要だ
- 3 一行の「ルール」が世界を変える
- 4 すべての冒険には「影の主演」がいる
- 5 ミライは「逆風」の向こうにある

14歳に向けて書かれた本ですから、優しく語りかけられるような感じで話が進みます。いろいろな人の生きざまが紹介され、人としての「在り方生き方」を問いかけているステキな本です。

昨年度終業式の講話で、今年度中に18歳成人となる生徒の皆さんに「心の師匠(メンター)」を持ちましょう」と訴えてきました。誰がいいものか…と悩んだときに、参考になる一冊だと思いますよ。

